

拝啓 今年も早や8月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園に百日紅の長い並木通りがありまして、今ちょうど見ごろでした。

今回は、小西芳之助先生の『コリント人への第一の手紙講解説教』からの引用の3回目ですが、元になった小西先生の聖書講解は、昭和48(1973)年のものですが、小西先生がイエスの十字架の贖いを、一生懸命説かれているのが伝わってきます。今回のエンカウターの8ページ、「十字架の宣教」という項には、次のように書かれています。

「十字架の宣教と言えば、キリストが十字架に架かって、我々の罪咎を贖って、我々に救いを下さったということです。我々に神の子とする信仰と、復活の望みをかなえて下さった。これが宣教です。……

われわれはこの信仰を受けて、続けていたらよろしい。続ける方法は、「我が主イエスよ」と、主の名を呼ぶこととあります。主の名を呼ぶこと、この宣教ということ、十字架の教えを述べることは、神の召しによっています。…私の説教も20年間、同じことを繰り返しておりますが、これも神の召しによっています。私は、私自身の知恵と、努力奮闘でやっているではありません。私は、神に召されてこういうことを言っているのであります。」

小西先生は、晩年よく「難信易行」と言われました。確かに、この十字架の贖いの信仰は、イエスの迫害者であったパウロは、それを固く信じていたと思いますが、我々には難信と言えるでしょう。難信易行、称名を続けておればそれでよろしい、というのが小西先生の主張です。真似をいたしましょう。

滋賀県大津市にお住いの吉川京子さんと新潟県胎内市にお住いの河内恵子さんのご提案を受けて、小西先生の聖書講解説教の録音テープ(カセット)の劣化を防ぐために、CDに変換することを企画して、高円寺東集会の皆様、元高円寺東教会の皆様、エンカウターの読者の皆様などに、3年計画で有料で頒布します、という案内をお送りしたところ、8月24日現在で、ロマ書講解説教は16名もの方(全部の方が6名)から申し込みを受けて、大変喜んでいきます。東京、神奈川、新潟、滋賀、福岡、徳島など、全国で、小西先生の聖書講解が聞かれることとなります。小西先生が、生前「自分の伝道は、天国に行ってから始まる」と言っておられたことの実現のようで、大変うれしく思っています。3年ほどかかる大プロジェクトではありますが、最後まで無事行なえるようお祈りください。

石館悦子さんが保管されていた石館守三先生の高円寺東教会における説教のCD約100枚を、同志会に寄贈するという仕事のお手伝いをして、無事同志会に送りました。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』8月19日

「よく始めることは、半分成就したこと

私は、テレビで相撲を見るのが好きである。勝負は、最初の立ち上がり方でほとんど決まってしまうという。人生もまた、そうであると思う。今日の一日は、どうして始めるかによって決まる。今日一日をどうして始めるかを注意しようではないか。毎朝、天国に一日

近づいたことを神に感謝する祈りと、主の御名を呼びつつ、今日一日の義務を尽くそうとする決心をもって起き上がろうではないか。」

新渡戸稲造先生『一日一言』8月7日

「同じ人を匹夫にするか豪傑にするか、小人にするか君子にするか、どちらにも作り上げる力は、だれしも必ず出会う落胆失望の時に起こる一決心にあるのである。最後の15分に来て、もう駄目だと倒るるものはそれきり、もう一つと立ち上がれば後はしめたもの。」

松下幸之助先生『道を開く』「おろそかにしない」

「仕事には知恵も大事、才能も大事。しかし、もっと大事なことは、些細と思われること、平凡と思われる事も、おろそかにしない心がけである。むつかしいことは出来ても、平凡なことは出来ないというのは、本当の仕事をする姿ではない。

些細なこと、平凡なこと、それを積み重ね積み重ねきて、そのうえに自分の知恵と体験を加えてゆく。それではじめて、あぶなげのない信頼感が得られるというものであろう。」

内村鑑三先生『統一日一生』7月30日

「キリストは聖霊である。聖霊はキリストである。ゆえに聖霊を受くるはキリストを迎うるのである。われら聖霊を受けんと欲して雲をつかまんと欲するのではない。われらはある確実なる目的を達せんとするのである。これに適當の準備がいる。適當な方法がある。準備はへりくだることである。方法は絶えず祈ることである。しかしてこの準備をなし、この方法をつくして、彼の到来（じゅらい）は確かである。」

パークレー先生『一日一章』8月8日

「たくさんの仕事をしなければならぬとき、まずなすべきことは、とにかく仕事を始めるということである。…はじめさえすれば戦いは半ば勝利をおさめたも同然である。」

カウマン先生『山頂を目指して』8月5日

「あなたの周囲の世界が目覚まし、活動しはじめる前に、朝早く、一日の準備をなさ。夜明け前のひとときは、一新の時である。早朝の静寂は、一日を通じて、祝福としてとどまることであろう。その静寂の中で、あなたの心を開き、あなたの魂を神に支配していただきなさい。」

8月28日（土）、南原研究会の研究発表会で、私は、「南原繁とヒルティエー」という題で報告をします。その原稿を付録として、つけさせていただきますので、お読みいただければ幸いです。

新型コロナのデルタ株が大流行をしています。どうぞ、マスク、手洗い、うがいなどはこれまで以上に注意され実行されて、お体には十分ご注意くださいよう、お祈り申し上げます。

8月25日

山口周三

エンカウターの読者各位